

SPEED
研究会

2018夏季セミナーを開催

スマホ利用のワークショップも

エコイノベーションと
エコビジネスに関する研
究会（通称・SPEED
研究会、会長 伊坪徳宏・
東京都立大学教授）は先
月28～30日、静岡県の伊

豆今井浜東急ホテルで、
昨今の環境課題や企業の
対応などを議論する「S
PEED2018夏季セ
ミナー」を開催し、大学・
研究機関や企業などの24

名が講演した。

今回のテーマは「20
50年の環境・社会影響
とサステナブル経営の展
望」。気候変動対策に関
するパリ協定の「1.5℃
努力目標」や「2℃目標」、
また環境・社会課題のグ
ローバル目標「持続可能
な開発目標（SDGs）」
を踏まえて、世界の水資
源や資源・エネルギーな

ど、幅広い課題と取り組
みが紹介された。

生物多様性に関して講

演した小堀洋美・東京都
市大学特別教授は、ス
マートフォン用のアプリ
ケーション「iNaturalist」
を利用し、会場周辺の生

き物を観察するワーク
ショップを行った（左写
真）。

「iNaturalist」は、人
工知能（AI）とインター
ネットを使って、世界中
の生き物の観察記録を収
集するための情報基盤。

誰でも利用でき、利
用者はスマートフォン
で動植物の写真を
撮影・投稿すると、
世界中にその情報が
共有される。

生物多様性のビッ
グデータを収集し、
研究に利用する目的

で開発された。市民が科
学研究プロセスに参加す
る「市民科学」を応用し
たもので、世界の64万人
の市民や研究者らが参加
し、これまでに約16万種
が登録されている。

生物多様性の損失が進
む中、不足する種の情報
を市民が提供し、研究を
補完する新たな取り組み
として、「市民科学の新
たな扉が開いた」と小堀
氏は話した。

また、伊坪会長はセミ
ナーの冒頭で、気候変動
対策に関する最近の動き

を紹介。世界では温室効
果ガスの主要排出事業者
である石油化学工業が積
極的にカーボンプライシ
ング（炭素価格付け）を
推進していることや、
カーボン・バジェット（炭
素予算）に代わる新たな
指標が開発されているな
どの動きを示した。さら
にSDGsの17の目標と
24名の講演テーマの関係
性を整理し、参加者らに

「活発なご意見をいただ
きながら、この会を盛況
にしていきたい」などと
あいさつした。



伊坪会長



小堀教授

